業界潮流リポート　春季大特集②

⑤山之内印刷

今年創業80年を迎えた山之内印刷㈱（東京都江東区冬木、布施繁社長、☎03・3641・1331）は、ビジネスフォームをメーンに手がけている印刷会社。新たな事業展開を図る同社は、「Ｇｏｏｇｌｅストリートビュー屋内版」の製作事業に着手した。「データを扱う」という意味では印刷業と共通項はあるものの、実質的にまったく異なる分野への進出となり、同事業を手がける印刷会社は全国でも珍しい。リアルなものを作れる印刷会社が、バーチャルな体験をもたらすストリートビュー事業に取り組む意義について、リポートする。（大野）

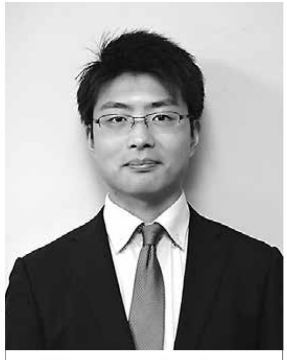
山之内印刷は長年ビジネスフォーム印刷に取り組み、2009年にはデジタル印刷機を導入してオンデマンド印刷にも着手していたが、印刷市場全体がシュリンクしていく中、新たな事業を模索。Ｇｏｏｇｌｅストリートビュー屋内版のビジネスを紹介する仲介業者から案内を受けたことをきっかけに、16年1月から、新たな領域へと踏み込んだ。

Ｇｏｏｇｌｅストリートビューとは、地図アプリ「Ｇｏｏｇｌｅマップ」上で使用できるサービス。利用者は、マップ上の所定のポイントから、モニターを通じて上下左右360度、視点を自由に変えて景色を眺められる。公道などの屋外はＧｏｏｇｌｅ本社が担当し、360度カメラを搭載したストリートビューカーが撮影。一方、屋内版は代理店や個人などＧｏｏｇｌｅ社外で製作を行うという分担になっている。

同社サイトで各地の 360 度写真を公開。写真は弘前公園の桜が織りなすハートマーク

「Google ストリートビュー屋内版」事業に商機

印刷物と連動し高精細な 360 度写真で観光 PR も



櫻田　真也 氏

ストリートビュー屋内版は、飲食店や雑貨屋、ショッピングセンターといった商業施設を主なターゲットに、店舗PR用途で活用されている。PCやスマートフォンを通じて360度写真を表示することによって、内装やインテリアなど、店舗の雰囲気を消費者へ伝え、集客へつなげることができる。

ストリートビュービジネスという新たな事業へ踏み出した山之内印刷は、Ｇｏｏｇｌｅストリートビュー事業部の櫻田真也氏が中心となって事業を展開している。同氏は一定数以上の360度写真をＧｏｏｇｌｅマップへアップロードすることで得られる「Ｇｏｏｇｌｅストリートビュー認定フォトグラファー」の資格を有しており、事業開始からおよそ2年間で、千数百枚にも上る360度写真を撮影した。

撮影を行うポイントの数に従って料金は変動するが、小型の店舗ならば数万円程度で依頼可能。撮影と360度写真を製作する初期費用以外は、運用にかかるランニングコストもなく「店舗と消費者のエンゲージ率を向上させる、導入ハードルの低いサービス」（櫻田氏）として注目されている。

撮影と編集にノウハウ　高精細で差別化

数年前まで360度写真の製作は、費用や手間の面から敷居が高かったというが、近年は撮影ツールの低廉化、編集ソフトの性能向上が進んでいる。こうした背景からストリートビュー屋内版を手がける事業者数は増加し、価格競争が過熱する事態に。その中で同社は、〝高精細〟を武器に存在感を表す。

複数の写真を組み合わせて360度のパノラマを表現するにあたって、特にノウハウが求められるのは、撮影と編集の技術が求められる。また、撮影時、三脚に立てたカメラで周囲を写し、編集段階で三脚を消去するにあたって、同社は画像処理技術で360度ゆがみや欠けのない鮮明な写真を提供している。

高度な撮影と編集技術を生かし、同社は商店街や自治体へ向けて、360度写真を活用した「ＶＲマップ」製作事業にも取り組む。同社の地元の門前仲町で行われたイベント「深川名所福めぐり」では、祭りの様子や周辺店舗の中がうかがえる「イベントアーカイブＶＲマップ」を製作。イベントホームページ（http://www.fukagawa-aki.com/360vrmap）と同社サイト（http://ybf-web.com）で公開している。踊りや猿回しなどは動画サイトともひも付けられており、イベント当日の様子を伝え、門前仲町の魅力を発信している。こうしたイベントは、撮影するシチュエーションが千差万別。櫻田氏は「撮り直しがきかないため撮影のノウハウと応用力が求められる」と話す。

また、各地の名所の360度写真を活用した観光PR事業にも発展の可能性があり、十和田湖や弘前公園などの写真を同社サイトで公開している。こうした360度写真はＶＲコンテンツにも応用でき、スマートフォンをモニターとして手軽にＶＲ体験が可能となっている。

「イベントアーカイブＶＲマップ」（上）やＱＲコード付きの印刷物も手がける

他事業への好影響　さらなる展望も

ストリートビューを手がける同業他社は、ウェブサイトや動画製作会社が多いとのことだが、同社はリアルなものが作れる印刷会社である強みを発揮。360度写真へのリンクを埋め込んだＱＲコード付きのカレンダーやポストカードなどの提案も行っている。櫻田氏は「ストリートビューの営業へ伺うと、印刷の困りごとを相談されることも」と相乗効果を説明する。

将来的に、同社の柱へ成長する可能性を予感させるストリートビュー事業。今後、一層の増加が見込まれる訪日外国人の取り込みにも有用な同事業について、櫻田氏は「口コミ効果で徐々に有効性が認められているが、ストリートビュー屋内版はまだまだ知名度が低い。当社のサイトやSNSを活用してPRを続けていく。今後も、見た人が感動してその場所に行きたいと思ってもらえるような写真を撮影していきたい」と展望を話す。

その弐・こんなモノつくっちゃいました